

廃棄物3Rのための社内環境づくり

株式会社東芝 浜川崎工場（川崎市） 製造業

場内共用のごみ箱の撤去によるごみの出しにくい環境づくり 廃棄物3Rに関する社員の意識向上を促す取組

取組の意図、目的、始めたきっかけなど

社内目標として、廃棄物排出量の削減を推進していましたが、場内の共用スペースに常設したごみ箱があり、誰でも手軽にごみを捨てることのできる環境で、分別がなかなか徹底できなかつたため、場内共用のごみ箱を撤去しました。

また、廃棄物の分別などに関する順守事項、依頼事項等を徹底するため、日頃から社員に向けて廃棄物3RのPRをしています。



↑ 左上 以前の場内共用のごみ箱
右下 現在の各職場の分別BOX



↑ リサイクルセンター（場内集積場）



↑ 環境ニュース（隔月発行）

取組の概要

■ あえてごみを出しにくい環境をつくる

従来、事業所内美化も考慮して通路や共有スペースに設置していたごみ箱を、ごみは部署ごとで捨てることを徹底するために廃止しました。現在では、部署ごとに1か所ごみ集積所を設置していますが、それに伴って職場内の個人用のごみ箱も減っていきました。

ごみの出し方が個人単位から部署単位に変わったことで、ごみを出しにくい環境になるとともに、きめ細かい分別の徹底によりごみ減量等の取組を実施できるようになりました。

■ 発生抑制を促すPRと職場ごとの廃棄物管理責任者の選任

2ヶ月ごとに発行する環境ニュースで、廃棄物の3Rの推進のPRを定期的に行っているほか、社内WEB上での分別方法の掲載や、廃棄物を含めた環境に関する教育を行うことで、社員の意識向上を促しています。

また、職場ごとに選任した廃棄物管理責任者を中心として、廃棄物集積所の管理、排出ルールの徹底など、社員が自主的に廃棄物を管理する環境づくりをしています。

取組のポイント

この取組はあえてごみを出しにくい環境づくりをすることで、ごみの発生抑制・分別の徹底につなげた事例です。また、廃棄物3Rの社内でのPRや、各社員が主となって廃棄物の管理をする環境づくりにより、廃棄物に関する意識向上を促し、自発的に3Rに取り組む社員の育成にも役立っています。